
影絵の少年

氷上 格子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影絵の少年

【Nコード】

N76530

【作者名】

氷上 格子

【あらすじ】

影の中にはもう一人の誰かがいる……、そう少年は言った。

（前書き）

ファンタジーって言うより伝奇のような。

ちよつとミステリっぽくもホラーっぽくもあるようなような。

そんな人間のカテゴリー感覚ってファジーで素敵。

総制作時間：3時間

遅筆が恨めしい。

あなたは、影の中に？もう一人の人間？がいることを知っているだろうか。

？もう一人の人間？は大抵宿主と同じ形をしている。

？もう一人の人間？、僕の場合は即ち、影の中の少年。

影絵の少年。

彼は——僕は僕の場合しか知らないので、これはあなたや、ほかの誰かの場合にはどうなのかよく分からないが——怒りや憎悪、嫉妬心といった負の感情を食べて生きている。人間生活をしている以上欠くことのない感情だ。少なくとも僕にとっては。

普段は大人しくボソボソと独りごちているだけのこいつなんだけれども、その食料の気配があつたときにはもう、押さえつけようもなく喧しい。

例えば、僕が好きだった子が他の誰か——それはいわゆるイケメンだった。僕が敵うべくもない——と付き合っていたりすると、彼はもう、何の祭りだというくらいに狂喜しながら僕にこう騒ぎ立ててくる。

『今どんな気分だい？　今どんな気分だい？　憎いかい？　悲しいかい？　ハハハハハハハ』

なんとも迷惑なヤツだ。

しかもこれが例えば自分が告白しようと思つた日に彼氏の情報を知ったりしたとすると、もうどうしようもない。

『今どんな気分だい？　今どんな気分だい？　憎いかい？　悲しいかい？　なら奪っちゃえよ。どんな手でも使つてさ。そうだな、例えばこういうのはどうだろう。彼をさ、車道へとばれないように突き落としてさ、殺しちゃうんだよ。何、巧くやればばれないさ。そして、悲しみにくれている彼女をそつと、優しく慰めてあげる。どうだ！　これは傑作だぞ。ちよつと安直かな？　何々、些細なこと

だ。このくらいベタな方が女の子はときめくものさ。少女マンガを読み漁っている俺が言うんだから間違いない』

現実と虚構の区別くらいつけてほしい。

しかし、こういうときは心がグラグラと揺れているものだから、よく考えるとかなりおかしい話でも勢いに押し切られてうなずいてしまいそうになるものだ。しかし僕は、小学生の頃、一度影絵の少年の助言（という名の妄言）を聞いて痛い目にあったことがあるので、心が傾きそうになっても何とか押し留める。それで間一髪、僕と彼女とあとよく知らない彼女の彼氏を大惨事から救ったのだ。

僕は数日後、ネットで自分の音楽を配信しようと思いついた（これは別に失恋のためじゃない。確かに作った曲は失恋の曲だったけれど、うん、全く関係ない）。実は僕はギターがそこそこ弾ける。もつという歌を歌うのも友達とのカラオケで絶賛される程度には上手かった。だから、曲を作ったりするのはまあまあ簡単とは言わないまでも、他の素人よりは上手くできたように思う。

僕には天性があったのか、三ヶ月もすると口コミで広がり、再生数もそこそこ回るようになっていた。仲の良い音楽仲間もでき、その頃は影絵の少年も以前よりさらに独り言のポリウムが小さくなり、大人しくなっていた（しかし、完全に消えてしまった訳ではない）。

さらに一ヶ月が経った頃だった。ネット上で最も仲のよかったミュージシャンがメジャーデビューすることになった。

それを聞いた瞬間、もう消え入りそうにしか喋らなかった、影絵の少年がこれまでの鬱憤を晴らすように喚き出した。

『今どんな気分だい？ 今どんな気分だい？ 憎いねえ。悲しいねえ。そうだ！これを機にやつに絶縁状を叩きつけるよ。どうだ？ きっと爽快だぜ。そうだな、文面はこれでどうだ？ 実はあなたのことは前から何故か気に入りませんでした。その理由も分からないのに一方的に嫌うのは人としてどうかと思っていたので表面上仲良くしていましたが、今回のメジャーデビューの話でその理由がはっ

きりしました。あなたの音楽は媚び過ぎです。そこらの聞き飽きた J・POP となんら変わるところがありません。それが分かったので、これからはもうあなたと表面上ですら友達として付き合うことができません。あなたのような低俗な人と付き合うと僕のレベルが下がります。さようなら。もう傑作だね！ このまま君は自分が最高の音楽だと思ふ所へ突っ走っていきなせ」

影絵の少年はこんなことを言ったように思う。しかし、僕は殆ど聞いていなかった。そう、僕にはもうそんな言い訳みたいな言葉は必要なかったのだ。その友達には素直に祝福のメールを送った。

それから半年、僕はひたすら音楽に熱中した。勿論目標はメジャーデビュー。朝に音楽、昼に音楽、夜に音楽ともう馬鹿のように毎日音楽のことしか考えなかった。なので、音楽をしているとき以外の行動は全然記憶に残っていない。友達にも話しかけられなかった気がする。友達にこの時の話を聞くと、何か気が立っているように見えて話しかけられなかったそうだ。

また、この六ヶ月間、影絵の少年の声は日々大きくなっていった。彼も学習し、最初のような筆絡はきかなく思ったのか、毎日言葉を交わす僕に話しかけていたようだ。最後のほうにはもう殆ど騒音でしかなかったが、それでも集中しているときは全くその声は聞こえなかったのであまり気にもならなかった。

そして友達のメジャーデビューから六ヶ月目であったこの日、ついにレコード会社から声がかかったのだ。そのときの気分といったらどう表現したらいいだろう。まさに天にも昇る心地だった。

その日の夜。上機嫌で過ごしているとあることに気づいた。今まで大ボリュームのスピーカーのように延々と騒ぎ立てていた影絵の彼が全く静かになっていたのだ。

その時になって僕は初めて悟った。そういえば影絵の少年がどんどんと声を大きくしていったのは僕が目標を設定してからだったか。つまり彼は僕が一步一步目標を達成しよう和高みに上る度に、その存在を大きくしていたのだ。負の感情を食っていた彼の目的は恐ら

く、僕と成り代わることだった。あの半年の間、音楽のことを常に考えていた間、僕の心では音楽以外のことは殆ど留守になっていたようなものだ。彼はそこで勢力をどんどん広げていたのだろう。

しかし、僕が目標を達成したそのとき、僕の心の中には彼の食料である魚の感情は一切と断ち切られていい程に消失した。その為、水の干上がった湖の魚のように、影絵の少年は僕の中で生きることができなくなったのだ。

こうして、彼と僕との共同生活は終止符を打った。ただうるさかっただけの彼も、こうしていなくなってしまえば寂しいものだ。そう僕はしみじみと思った。

多分一ヶ月が経った頃の話だったと思う。この一ヶ月でこの業界のいろいろな人に会わせてもらい、僕はこう思った。この業界には、想像もつかないほどの才能が、たくさんいる。

すると薄っぺらい影のような誰かがこう囁いた。

『よう、久しぶり』

（後書き）

ア・バオ・ア・クー（A B a o A Q u）についてご存知だろうか。

彼（彼女？）はアジアのどこかに存在するといわれている「勝利の塔」に御住まいだ。

その伝説については興味を持ってもらった時に各々に勝手に調べてもらうとして、

言ってしまうはこの作品は、この幻獣に取材した作品である。

永遠に螺旋階段を上り続ける彼の伝承の要素を抜き取って現代っぽい雰囲気何となくなあなあに付け加えてみた作品だ。パクリと言ってもいい。

で、本文を要約してみると、人間は何時まで経っても負の感情から解放されないんだよ、とか何とか。

作品で語れ、って言う話ですね。無理でした（笑）。

以下、蛇足

自分勝手な私見を述べさせてもらうと、彼女（彼？）はとんでもない萌えキャラだ。

まず絶対報われない。99.9999%報われない。

1度だけ報われたこともあるというが、まあこれは例外といってもいいだろう。

さらにこいつ、どんどん妄想を膨らませられるミステリアスさ。

『勝利の塔』から離れないとか、なんか素敵エピソードがある気がする仕方が無い

そして肌の感触は桃の皮であるらしい。もう萌えるしかない。

まだある。なんとこいつ、完全体というんでもないモノを残している。

いつか誰かがコレを題材にしたダンジョンRPGとか誰か出さない

だろうか。

ここでぶっちゃけると、この作品を作った本当の目的はこいつの布教である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7653o/>

影絵の少年

2010年11月7日21時55分発行